

2022年度第3回契約監視委員会議事要旨

1. 日 時:2023年4月17日(月)13:45~15:40
2. 場 所:JAXA東京事務所 地下階 B101、B102、B103 会議室
各拠点のTV会議端末拠点及びTeams
3. 出席者:横山委員長、大久保委員、田澤委員、三宅委員、小林委員
(※大久保委員は米国からTeamsによるリモート参加)

4. 審議概要:

- (1)2022年度第2回契約監視委員会議事要旨の報告
事務局より前回委員会議事要旨について報告があり、了承された。
- (2)2022年度第2回契約監視委員会アクションアイテムの報告
「2022年度調達等合理化計画第2四半期の実施状況」アクションアイテム回答
調達部より、資料2をもとに、2022年度第2四半期の一者応札率が2021年度と比べて高くなっていることについて説明がなされた。特に企画競争の中で派遣契約の一者応札が多いことについては調達部にて別途検討して報告される予定。
- (3)2022年度調達等合理化計画自己評価について(第3四半期の実施状況について)
調達部より、2022年度調達等合理化計画に基づく全体総括結果として、第3四半期までの随意契約や一者応札・応募の実績を含む物品・役務の合理的調達に関する取組実績等について説明があり、質疑応答の結果、一部資料修正の上、審議了承された。
- (4)2022年度第3四半期に新規に締結した契約の点検
2022年度第3四半期に新規に締結した随意契約及び一者応札・応募となった案件のうち、契約金額が大きいもの、複数の仕様書受領があったものを中心に点検を受けた。その結果、問題となる契約はなかった(個別案件ごとの点検内容は別紙のとおり)。

その他

- ・次回の委員会は、2023年6月1日に開催することとした。

第3回 2023年4月17日

競争性のない随意契約			3件	① 種子島宇宙センター吉信整備組立棟高層棟外壁破損部補強工事 ② 2022年度TV会議システムの整備 ③ 第2衛星フェアリング組立棟(SFA2)フェアリング組立作業台安全対策
競争入札	一般競争	価格評価	1件	④ JEM 船外LEDビデオライトユニットの開発
企画競争			1件	⑤ 有人与圧ローバ走行システムの概念検討および機能要素試作

主な質疑等は以下のとおり。

① 種子島宇宙センター吉信整備組立棟高層棟外壁破損部補強工事

[競争性のない随意契約]

本件は、2022年9月18日に種子島を通過した台風14号により破損したVAB高層棟B/H側の外壁の一部を補修する契約である。VABは内側と外側の折板材で断熱材を挟んで1つの壁として成型しているため、台風等による強風が吹いた際にさらに外壁がはがれるか、1枚だけになった折板材が風による圧力や飛散物により崩壊する恐れがあるため、足場設置による補強を速やかに実施する必要がある。H3試験機1号機打ち上げまでに作業を完了できる体制が整っている必要がある。

契約相手先は資格等級に問題がない(AもしくはB等級)業者のうち、種子島内に拠点となる工事事務所を有しており、必要時期までに確実に要求を実施できる体制が整っている唯一の業者であると判断し、「緊急の必要があるため競争に付することができない契約又は不利と認められる契約(契約事務実施要領第69号第1項(セ))」を適用し、随意契約としたとの説明が担当者よりあった。

委員からは、契約期間が長いことで緊急性のある部分とそうでない部分とで分離

発注することで部分的にも競争性の確保は出来なかったのかとの質問があり、本工事は緊急性を要する被害状況の調査、修理と、緊急性を要しない修理の部分とを分離発注することも可能であったが、足場材の設置は共通部分を占めており、分離発注をする場合は足場を解く期間に外壁がいつ壊れてもおかしくない状況となってしまうため一体での調達としているとの回答があった。

② 2022 年度 TV 会議システムの整備

[競争性のない随意契約]

本件は、筑波宇宙センターに設置している TV 会議システムのセンター装置類、各事業所の会議室等に設置している TV 会議端末、TV 会議システムと Microsoft Teams を連携するサービスを更新するための契約で、TV 会議システムを Web 会議に完全移行することができないため縮小して維持することにしたことから、①TV 会議端末は台数を削減して維持する。既設品をできるだけ使い続けたいが必須条件とはしない。サーバ類の更新の制約になるのであれば買い替えてもよい。②現在のシステム構成では、サーバ類は冗長化して可用性を高めているが、冗長化は不要である。③Teams 会議と TV 会議を連携するサービスは TV 会議端末の同時接続数に上限があるため改善する。を整備方針として RFI を行い入札し 3 者の応募があったが、予定価格を下回らず落札者がなかったことから、評価点において有利な提案をした業者と商議を行い、予定価格の制限内に達したため「入札者又は落札者がいないとき(契約事務実施要領第 69 条第 2 項)」を適用し、随意契約としたとの説明があった。

委員からは、業者との情報提供等は時間をかけているようだが、こちらの要望どおりの提案にならなかったのはコミュニケーションをやる上でうまくいかなかった要因があるのかとの質問があり、コミュニケーション不足というより、世の中の動きが読みきれなかったことが要因と考えている。情報収集している段階と後日で機能に齟齬がでるなど情報収集の遅れや、世の中がウェブ会議端末に移ろうとしているところで JAXA の仕様は TV 会議端末が必要であったことなどで価格等で折り合えないケースとなったとの回答があった。

③ 第 2 衛星フェアリング組立棟(SFA2)フェアリング組立作業台 安全対策

[競争性のない随意契約]

本件は、第二衛星フェアリング組立棟(SFA2)のフェアリング組立作業台に、衛星に近接して安全に作業をするためのスライドフロア設置改修を実施するもので、公告後、2 者から資料請求があったが応募は 1 者であった。辞退理由は作業員確保が困

難とのことであった。打上げ計画の関係上2月以降の施工となり作業員の確保が困難となったこと及び離島という立地条件から諸経費が生じてしまう等により利益が見込みにくいことから一者応札になったと考えられる。入札の結果不落となった。不落随意契約へ至った考察として、予定価格作成時、参加業者の参考見積もりを元に積算を行った際、原局の意見を参考に工程表、計画書等の書類作成工数の査定を行ったが、この査定が業者想定より厳しかったためと考えられる。また、資金設定の都合上年度後半に発議することとなってしまったが、今後は可能な場合は早期の発議とすることで工期を確保し、応札業者を広く募ることとしたいとの説明が担当者よりあった。

委員からは、不落随意契約となった理由が資金設定の都合で年度後半になり発議が遅くなったこととしているが客観的な説明が必要ではないかとの質問があり、担当からは、見積りを取った時点から原材料の高騰があったとの回答があった。また、委員から、どうやれば発議が早くできるのか、調整に時間をかければ対応が出来たのかや、原材料の高騰などの客観的理由を記載するようになどのコメントがあった

④ JEM 船外 LED ビデオライトユニットの開発

[一般競争・価格評価方式]

本件は、JEM(きぼう)船外に設置されているビデオライトユニット(VLU)補用品を開発するもので、現行品は短寿命、高発熱、水銀使用等の課題があるため、LED化により課題解決を図るものである。LED照明自体は汎用的な製品で本業務を実施できる業者が1者に限定できないことから、試作、概念検討と各フェーズごとに一般競争入札としてきている。しかしながら、JEMへのインタフェース適合、宇宙環境への適合、並びに有人宇宙施設搭載としての品質要求等については、地上製品提供企業には知見、経験がなく、試作等の経験を経していない企業にとってはリスクが大きく、応札に至らなかったものと想定される。一方、宇宙用製品を製造している企業においてはCOTS品LEDの知見、経験がなく、これらを前提とした宇宙用製品開発にはリスクが大きいと判断した可能性があるということが一者応札の要因と考えられるとの説明が担当者よりあった。

委員からは、試作等の経験がない企業にとってはリスクが大きく応札に至らなかったということだが、選択肢としては研究開発なので過去の契約実績を踏まえて随意契約にする方法もあったがそれでも競争入札にした理由はあるのかとの質問があり、担当者からは、今回フライト品を調達するが、一般的によく使われているLEDライトということで、公平性を保つために競争入札にしたとの回答があった。また、委員から、本調達に関心を持ってくれたところが応札しなかった理由を確認することで今後このようなケースでどうすればいいかという対策につながるとコメントがあった。

⑤ 有人与圧ローバ走行システムの概念検討および機能要素試作

[企画競争]

本件は、宇宙飛行士が宇宙服なしで月面探査を可能とするシステムである有人与圧ローバの実現に必要な不可欠な技術である「走行システム」の技術的実現性の向上を目的とした概念検討及び機能要素試作による技術成熟度の向上を図るものである。企画競争実施前に情報提供要請を実施し、宇宙業界だけでなく非宇宙業界含めて12社からの情報提供を受け、企画競争への参加を検討するきっかけを作ることができた一方、走行システムの提案には、複数法人による共同提案が必要となるような技術領域の広さが必要となり、既存の地上自動車等の開発体制がないと短期間での提案体制を構築することが困難であることが分かった。一者応札の対応として、要求を緩和することは難しいが、公告からの提出期限を可能な範囲で長くするよう見直しを行う。情報提供要請および積極的な声掛けを活用するとともに、より参入しやすい条件・評価方法なども検討していく旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、提案業者以外の同業種事業者の検討状況について質問があり、別の月面ローバの再生型燃料電池システムの企画競争に提案しており、走行システムまでの参入を考えていないことや、月面ローバのような大きなもののところまで参入を考えているような状況ではなく研究としてやっていきたいとの回答があった。また、委員から、一者応札の対策として参入しやすい条件を立て競争性が出るように検討いただきたいとのコメントがあった。

以 上